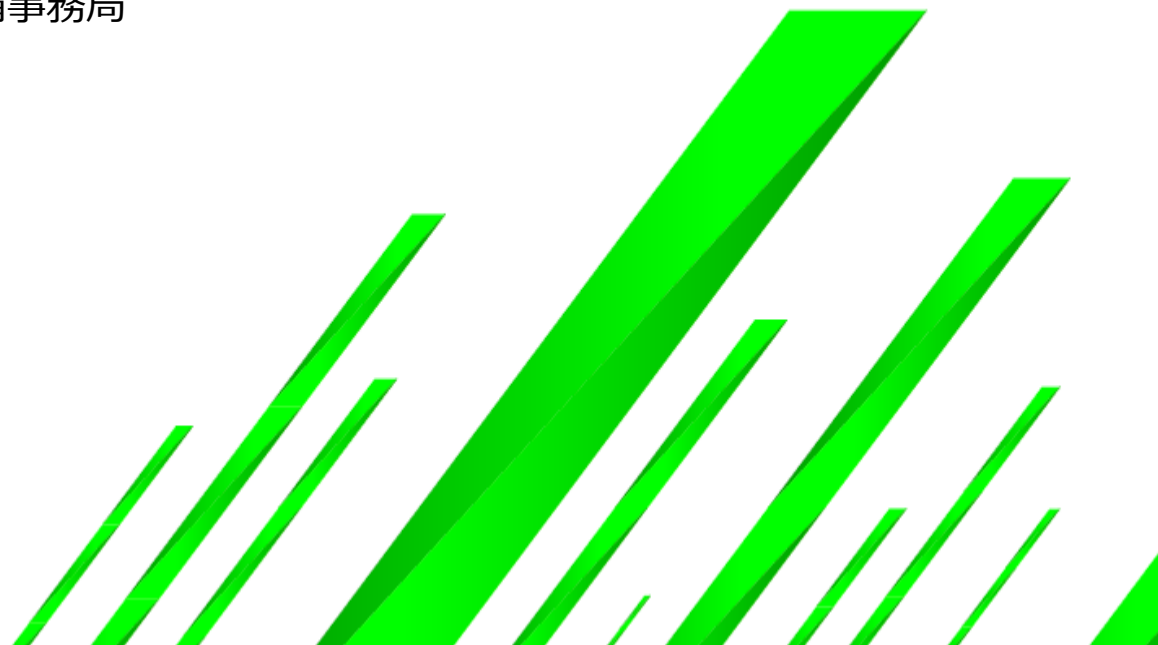


GXリーグにおける排出量取引に関する 学識有識者検討会について

令和4年9月6日 GXリーグ設立準備事務局



GXリーグの概要

・カーボンニュートラルへの移行に向けた挑戦を果敢に行い、国際ビジネスで勝てる企業群が、GXを牽引する枠組み。

【参画企業に求められる取組】

- ① **自らの排出削減**（自ら目標設定、挑戦、公表）
 - ◆ 自らが、2050年カーボンニュートラルと統合的な2030年削減目標（+中間目標）を設定・公表
 - ◆ 目標未達時は、排出量取引の実施状況を公表
 - ◆ 国の削減目標（46%）より野心的な目標を奨励（目標を超過した削減分は、取引可能）
- ② **サプライチェーンでの排出削減**
 - ◆ 自らの削減だけでなく、サプライチェーン全体での削減を牽引（上流側の事業者に対する、省エネ等の取組支援・下流側の需要家・生活者に対する、自社製品の環境性能の訴求）
 - ◆ 定量的な目標設定を奨励
- ③ **グリーン市場の創造**
 - ◆ 使用時の排出を低減する（削減貢献する）新製品や、脱炭素・低炭素製品（グリーン製品）の市場投入
 - ◆ 自らも、グリーン製品調達・購入を奨励

【GXリーグでの主な活動】

<削減をビジネスにつなげる取組>

- ① **2050年カーボンニュートラルを前提にした上での将来のビジネス機会の提示**
 - ◆ 幅広い業種からなる企業群が、カーボンニュートラルを前提にした上でビジネス創造の可能性を示す。
- ② **グリーン市場創造に向けたルールメイキング**
 - ◆ 上記ビジネス機会も踏まえ、市場創造のためのルール作りを行う。（例：グリーン製品の認証制度 等）

<削減を着実かつ経済合理的に行う取組>

- ③ **自主設定した目標達成に向けた排出量取引**
 - ◆ カーボン・クレジット市場を通じた自主的な排出量取引を行う。

GXリーグ基本構想への賛同企業

賛同企業のCO2排出量

賛同企業によるCO2排出量は日本全体の約28%。家庭部門等への電力供給に伴う排出を加味すると、4割以上と見込まれる。

| | CO2排出量 | うち、賛同企業の割合 |
|---|---------------|------------|
| 日本全体 | 約11億4,600万トン* | 約28% |
| (電力会社が家庭等に供給している電力に伴う排出を加味すると、 4割以上 をカバー。) | | |
| 賛同企業合計 | 約3億2,000万トン** | - |

*2018年度の温室効果ガス排出量（確報値）より

**2018年度の温対法に基づく温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度により集計された各社排出量を積み上げ

賛同企業からの反応・意見

<ルールメイキングの実施希望事項>

| | |
|-------------|---|
| 部素材のCO2ゼロ表示 | <ul style="list-style-type: none">個別製品のCN価値表示のあり方と個別基準策定マスバランスアプローチ導入によるCO2削減やサーキュラーエコノミー加速のためのルールメイキング・社会実装に向けた取組 |
| カーボンクレジット | <ul style="list-style-type: none">カーボンリサイクルやCCUSでのクレジットの考え方の議論炭素削減価値の新たな創出の仕組み（自然由来クレジット、ブルーカーボン等） |
| 金融市場での評価 | <ul style="list-style-type: none">公平・公正な制度設計（より高い削減目標を設定する企業へのインセンティブ付与、産業ごとの最低削減率の設定等）行動変容を起こす取り組みに対する投資家の理解の促進 |
| 削減貢献量の表示・開示 | <ul style="list-style-type: none">CO2排出削減貢献量やScope 3の考え方、ルールのリ・デザイン削減貢献の価値を製品・サービスに反映する方法を検討する場への参加 |

2022年度のGXリーグ設立に向けた準備スケジュール

2022年度

2023年度

4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月 4月

GXリーグという場のルール作り

準備期間の取組に向けた事務局準備

各議論参加企業募集

GX本格始動に向けた運営規程等の整備

4/1 賛同企業公表

準備期間

① 賛同企業による、ビジネス創造のための未来像の対話

2050CN実現に向けて、企業としての行動指針策定や賛同企業によるビジネス機会の発見のため、未来洞察ワークショップの開催、GXリーグが目指す未来社会像の作成等

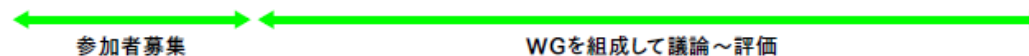


実証準備

- ①各賛同企業+事務局における、“互いを知る”ためのコミュニケーション
- ②各賛同事業社からの具体的な取組実施要望事項の収集を通じて、準備期間も含めた1年間の具体的な活動イメージを提示

② 市場創造のためのルール形成の準備

まずは、賛同企業からの発案を受け入れつつ、2~3のWGを設置し、ルール形成の取組事例の構築に向けた議論・実証



③ 自主的な排出量取引の準備

自主的な排出量取引の実施に向けたルールメイキング

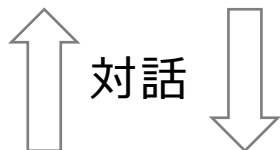
本格稼働期間へ移行

GXリーグにおける排出量取引ルール等の策定

- ・GXリーグにおける排出量取引のルールや、発展の道筋について集中的に検討する場をGXリーグ内に設置する。
- ・有識者の意見を踏まえ、賛同企業と対話をしつつ、経産省が策定。（6月10日キックオフイベントで発表）

経済産業省

GX投資促進の観点、産業・企業間の公平性、成長志向型のカーボンプライシング政策の観点から、**排出量取引のルール**や**発展の道筋**について、策定。



GXリーグ賛同企業

賛同企業向け説明会、多排出産業（分野別トランジション・ロードマップ策定分野）・金融業界との意見交換会や、**書面での質問受付・意見照会**を実施。

学識有識者検討会



政府におけるカーボンプライシングの検討に携わってきた学識有識者から構成。制度設計について、**専門的見地から意見。**

検討会委員

有村俊秀（早稲田大学政治経済学術院教授、同環境経済・経営研究所所長）

伊藤元重（東京大学名誉教授）

大橋弘（東京大学大学院経済学研究科教授）

前田章（東京大学大学院総合文化研究科教授）

安田洋祐（大阪大学大学院経済学研究科教授）

オブザーバー

環境省・金融庁・JPX

【参考】キックオフイベント概要

GXリーグ2022 キックオフイベント（6/10）

総合資源エネルギー調査会 基本政策分科会
(第49回会合) 事務局資料抜粋 (2022年6月)

- 4月1日時点で、**440社の企業が、“GXリーグ基本構想”へ賛同表明**。これまで、賛同企業との個別のコミュニケーションを実施し、企業の関心、GXリーグへの期待を聴取。
- GXリーグの3つの機能（①未来像の対話、②市場創造のためのルールメイキング、③自主的な排出量取引）の内、①**未来像の対話について、6月末より活動※を開始**するに先立ち、**GXリーグ2022をキックオフするためのイベントを開催**。（※参加企業100社超による、ワークショップを予定）
- 今後、賛同企業とともに、**来年度からの本格稼働を目指し**、GXに向けた各種**ルールメイキング**の議論や、**取引所実証**（9月開始予定※）等を行っていく。（※第二次賛同企業の募集も予定）
- イベントにおいて、大臣から、クリーンエネルギー戦略中間整理では、**GXを実現するための5つの柱の一つ**として、「**GXリーグの段階的発展**」を位置づけたところであり、GXリーグにおける**排出量取引のルールや、発展の道筋**について**集中的に検討する場※をGXリーグ内に設置**することを発表。
（※有識者の意見を踏まえ、賛同企業と対話をしつつ、経産省が策定）

【第1部】

開会の御挨拶

経済界からのメッセージ

関係省庁からの挨拶

賛同企業のプレゼン

クローズメッセージ

● **萩生田大臣**

● 経団連 十倉会長、全銀協 高島会長

● 環境省、金融庁

● Panasonic、三菱ケミカル、ユーグレナ
※賛同企業440社を代表しての、GXリーグに向けた期待、コミットメントの表明)

● 産業技術環境局長



※第2部は、各企業間の交流や今後の議論/実証への積極的な参加を促す対話プログラムを実施。（賛同企業のためのイベント）

※ZOOMの参加者が約750名、現地参加メディア：22社（30名）、オンライン参加メディア13社（16名）

GXリーグにおける排出量取引ルール等の策定に向けた今後のスケジュール

9月6日
第1回学識有識者検討会

- GXリーグにおける排出量取引の考え方について議論
- 賛同企業は傍聴可能
- 資料・議事要旨・概要は、検討会后、対外的に公表

9月7日以降
GXリーグ賛同企業との対話

- 賛同企業向け説明会 (9/7)
- 書面での質問受付 (~9/16) ・意見照会 (~9/30)
- 多排出産業 (トランジション・ロードマップ策定分野) や 金融業界との意見交換

秋頃：第2回学識有識者検討会

- 企業からの意見を踏まえた事務局案の提示

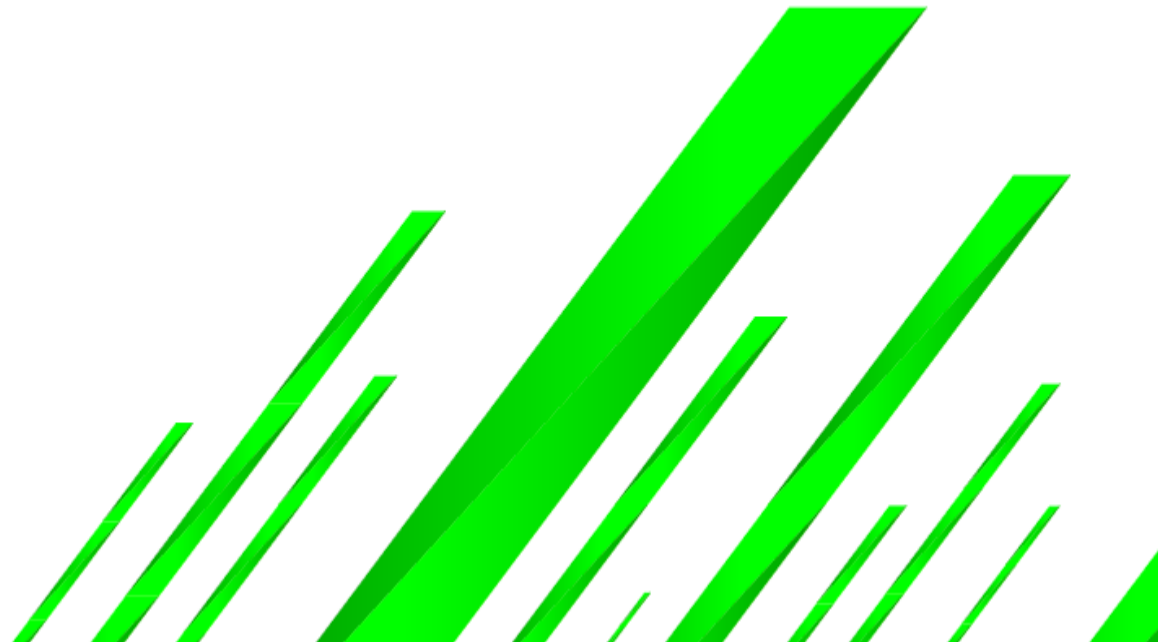


年内：排出量取引ルールの策定

2023年度：本格稼働

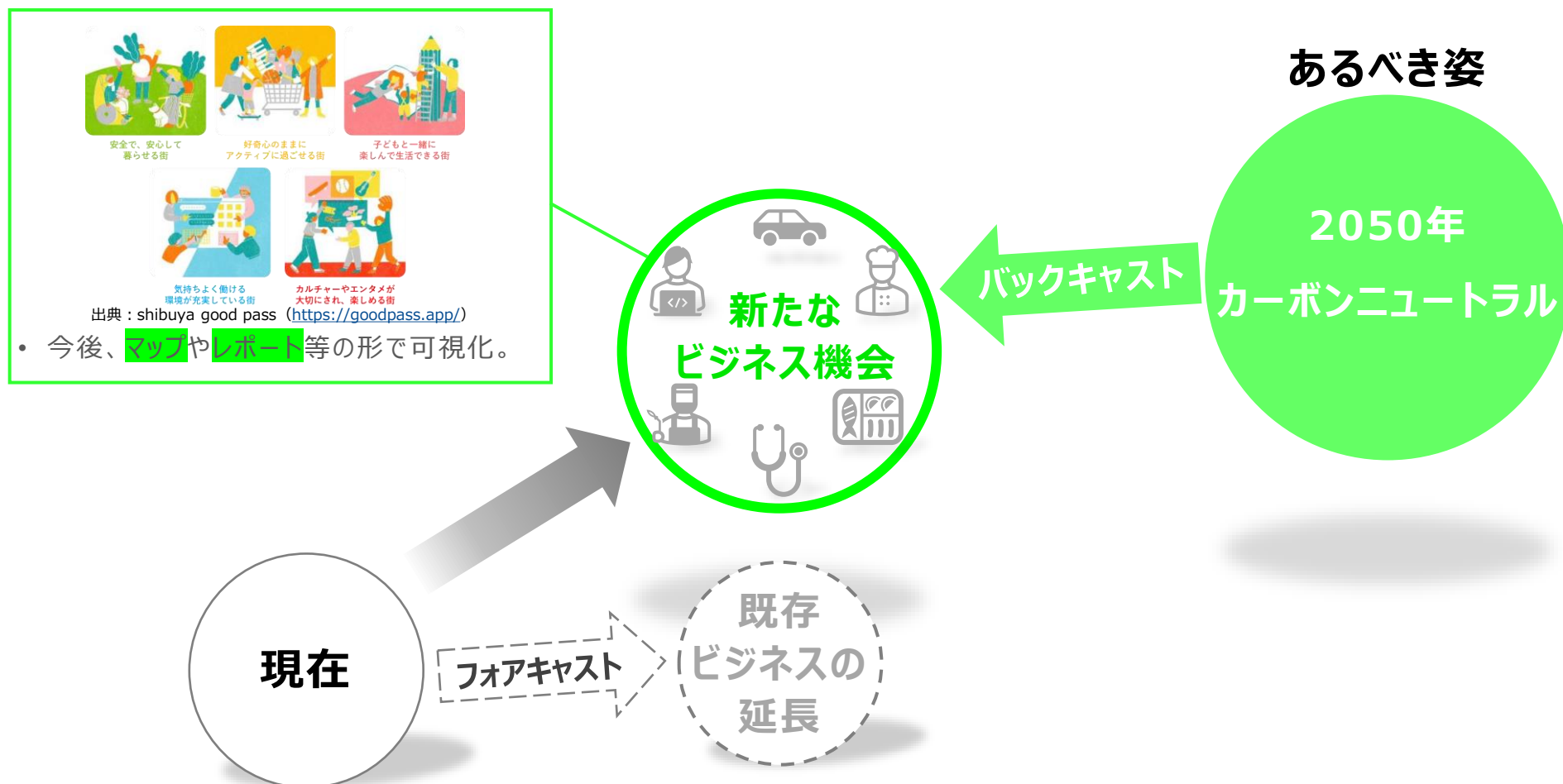
- 賛同企業による目標値・排出実績の登録
- GX移行戦略等の登録

(参考) GXリーグで既に進めている取り組み



①未来社会像の創造（将来のビジネス機会の提示）

- 2050年カーボンニュートラルという現在とは不連続な将来におけるビジネス機会をフォアキャスト的手法で導くことは困難。
- 将来のあるべき姿からバックキャスト的にビジネス機会を導くことで、既存ビジネスの延長戦上にはない新たな市場を創出する。
- 2022年度は、将来におけるビジネス機会を未来像として具体化すべく、賛同企業101社による大規模WSを実施。



②市場創造のためのルール形成

- **官民連携でのルール形成の促進**に向けた議論の場をGXリーグ内に設置。
- 各社の関心事項を踏まえ、**①産業横断的**で、**②日本企業が国際的に貢献**でき、**③投資促進につながる**領域におけるルールの形成に関するアジェンダについて賛同企業によるWGを試行的に立ち上げ。

| | 想定する論点例 | アウトプット例 |
|----------------------------------|--|--|
| GX経営促進 9月~1月にかけてWG開催予定 | <ul style="list-style-type: none">① 削減貢献量を含む企業開示の在り方② 金融市場を通じた評価・指標、金融商品の開発、インセンティブ検討③ 中小企業における対応 | <ul style="list-style-type: none">① ガイドライン、標準化② 認証、指標開発③ ガイドライン |
| 低・脱炭素部素材・商品 | <ul style="list-style-type: none">① グリーン調達、費用負担等の考え方/在り方② CFPの見える化、標準化、炭素情報の流通の在り方③ CO2ゼロ価値/低・脱炭素部素材の認定・表示 | <ul style="list-style-type: none">① イニシアティブ発信② 標準化、ガイドライン、ツール③ 認証制度、ガイドライン |
| 新価値創出 | <ul style="list-style-type: none">① 環境価値（自然由来等）クレジットの創出② クレジット関連の派生商品の役割 | <ul style="list-style-type: none">① 自主規制、ガイドライン② ガイドライン |
| 消費者の行動変容促進 | <ul style="list-style-type: none">① 低・脱炭素製品等、環境配慮製品に対する需要創出 | <ul style="list-style-type: none">① イニシアティブ発信 |
| イノベーション・新事業促進 | <ul style="list-style-type: none">① イノベーション創出に向けた協業・企業間連携の促進② 新規ビジネスモデルの創出 | <ul style="list-style-type: none">① 仕組み構築② 仕組み構築 |
| 人材 | <ul style="list-style-type: none">① 消費者の意識変革および従業員の人材育成 | <ul style="list-style-type: none">① ガイドライン、ツール |